

「筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者に対する外科手術」

研究代表者 和泉 唯信（国立大学法人徳島大学 教授）

研究要旨

筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者に発症した悪性腫瘍に対する外科手術については不明な点も少なくない。気管切開下人工呼吸（TIV）装着中のALS患者に対する外科手術について検討した。

A. 研究目的

筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者に発症した悪性腫瘍に対する外科手術の意義は明らかではない。気管切開下人工呼吸（TIV）装着中のALS患者に対する外科手術について検討した。

B. 研究方法

悪性腫瘍を発症したALS患者の治療について検討する機会を得、ALS患者における外科手術に関して文献的考察を加えて検討した。

（倫理面への配慮）

患者の希望と、十分な Informed Consent により治療を選択した。

C&D. 結果と考察

医中誌および Pubmed で ALS 患者における悪性腫瘍切除症例の報告を検索し、胃癌 6 例を含む 27 例の手術症例を認めた。術後経過の記載のあった 24 例中、16 例（66.7%）は術後経過良好であった。また、全 5 例は術前から人工呼吸器を使用しており（TIV 2 例、非侵襲的人工換気（NIV）2 例、気管挿管下人工呼吸 1 例）、NIV を使用していた 1 例が術後抜管不能で TIV に移行したが、残り 4 例の術後経過は良好であった。なお、術前に人工呼吸器を使用していなかった 3 例が術後人工呼吸器を必要とした。

E. 結論

TIV 装着中の ALS 患者においても状態によって外科手術が可能である。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

1. 学会発表

なし

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

なし